

## W-4-2

### パイワン語とその周辺言語の語彙的接頭辞

\*大谷青渚 (京都大学非常勤講師)

#### 1. はじめに

本発表では台湾原住民諸語のうち、パイワン語を中心とする語彙的接頭辞 (Lexical Prefix: LP) の活性が中程度の言語について、周辺言語としてルカイ語も含め、その LP の特徴について検討する。これらの言語は台湾の南部に分布している。

次節では、A) 接辞によってあらわされる意味とあらわされやすい意味、B) それぞれの接辞の意味は明確であるか、C) 接辞に生産性はあるか、D) 語基と LP の間にはどのような意味関係を持ちうるか、E) 意味的に対応する語根との形式の一致、類似はあるか、F) 接頭辞調和はあるか、の6つの特徴を LP の活性度を測る指針の一つとして用い、例を挙げながら確認していく。そのほかにパイワン語、ルカイ語ともにみられる特徴として 1) LP の付加は義務的ではない、2) 意味さえ適切であれば2つの LP を同時に使用することも可能であるという特徴があげられる。以下、LP は網掛けであらわす。

#### [1] LP×2 の例

パイワン語； **ru-sa**-gadu (LP(頻繁に)-LP(〜へ行く)-山)「よく山に行く」

(族語 E 楽園句情境族語訪談用語対話練習(一)26 句目)

ルカイ語； **o-tali**-vee'ao (LP(取り除く)-LP(包む)-玄米)「台湾版ちまきの包みをとく」

(Zeitoun 2007: 489)

#### 2. パイワン語の語彙的接頭辞の特徴 (おおよそ 85 個)

パイワン語には北部・南部・中部・東部方言があり、今回はその中でも最もデータの豊富な中パイワンを扱う。資料は小川・浅井 (1935)、Ferrell (1982)、Huang (2012) を主に参照する。

・中パイワンの音素； a, i, ə, o, p, b, t, d, ɖ, c, ʃ, k, g, q, ʔ, v, s, z, ts, r, m, n, ŋ, l, ʎ, w, j + (h) <sup>1</sup>

#### A. 接辞が表す意味にはどのようなものがあるか？接辞で表されやすい意味はあるか？

表 1: 語彙的接辞のあらわす意味 (パイワン語)

	削 る	縛 る	投 げ る	与 え る	洗 う	着 衣	飲 む	食 う	獲 得	除 去	作 る	発 話	所 在	行 く	な る	臭 う	好 き	類 似	上 手	所 有	存 在	し に 来 る
パイ	-	-	-	-	+	-	+	+	+	+	-	+	+	+	+	-	+	-	+	-	-	-

\* hao0927hao@gmail.com

<sup>1</sup> /h/ は借用語にしか使われないため括弧で示す。

「食う」「飲む」に関して、パイワン語は kin-「(食物・飲物を)消費する」という LP1 つであらわす；kin-vava (LP((食物・飲物を)消費する)-√酒)「酒を飲む」など。「なる」は「(形容詞に)なる」場合と「(名詞に)なる」で異なる LP を用いる；前者は mā-kuḡaḡ (LP(なる)-√大きい)「太る」、後者は masan-sinsi (LP(なる)-√先生)「先生になる」など。匂いに関しては sa-「~の匂いがする」という LP を持ち、sa-guḡ (LP(~の匂いがする)-√牛)「牛のようなにおいがする」のように用いる。

## B. それぞれの接辞の意味は明確か？

上記の表 1 とその具体例に見るように、基本的には明確であるといえる。しかし名詞に付いたときは「~から」という意味を表す kasi- は、形容詞 ḡuaq「よい」に付いたときは kasi-ḡuaq (LP(~から)-√よい)「正面、平」という意味になるなど kasi- 自体の意味が少し不明瞭になる。そのほか、tjari- は tjari-vavaw (??-√上、上方)「天国」のように用いるが、tjari- 自体の意味は不明瞭である。このように接辞の意味が不明瞭なものもいくつかある。

## C. 接辞に生産性はあるか？

生産性の有無を、(あ) 着く相手の意味を選ばないかどうか、(い) 外来語に着くかどうか、(う) 即興的に作られるかどうか、(え) 句に着くか、を基準に考える。

(あ) su-「取り除く」など、様々な種類の意味を相手にとる LP はある；s<əm>u-kava (LP(取り除く)-√服)「服を脱ぐ」、s<əm>u-ḡusa (LP(取り除く)-√2)「2匹(動物/魚)捕まえる」、s<əm>u-ḡiaw (LP(取り除く)-√たくさん)「たくさん食べる」、s<əm>u-alap (LP(取り除く)-√とる)「取り除く」など。

(い) s<əm>a-「~へ行く」は s<əm>a-kiukai (LP(~へ行く)-√教会)「教会へ行く」、s<əm>a-gaku (LP(~へ行く)-√学校)「学校へ行く」など、日本語からの借用語と結びつく例がよくみられる。

(う) 今回用いた資料からは、LP を用いて即興的に語が作れるか否か判断できない。

(え) 今回用いた資料からは、LP が句に着き得るか否か判断できない。

## D. 語基との間にはどういう意味的関係を持ちうるか？

表 2: LP と語基の間に成立しうる意味関係 (パイワン語)

	対象	回数	多/少	数量	範囲	レ貼	様態	描写	結果	可能	空	願望	場所
パイ	+	+	+	+	-	+	-	+	-	-	(+)	-	+

パイワン語では「対象」が最も多く、masi-ausua (LP(持って行く)-√傘)「傘を持って行く」などその他多くの LP と語基の関係がこれに当たる。レッテル貼りの例としては kasi-「~から」→ k<əm>asi-putsuḡ (LP(~から)-√Putsuḡ (村名))「Putsuḡ 出身」、pu-「持つ」→ pu-paisu (LP(持つ)-√お金)「お金持ち」などが挙げられる。「描写」は kən<sup>2</sup>-mata? (LP((食物・飲物を)消費する)-√生)「生で食べる」などがある。空語根に関して、現在一種類のみ masan-aya (張 (2016: 181)) というものが見つまっている。これは LP である masan-「(名詞に)なる」が語基 aya「言う」に着いていると考えられるが、masan-aya の意味は「(名詞に)なる」であり、aya が意味を持たない空語根のように働いている。こ

<sup>2</sup> Egli (2002: 113) に kən-「(食物・飲物などを)摂取する<接頭辞>」と標記されていることから、本ページ上部で示した kin-「(食物・飲物を)消費する」と少なくとも何らかの関係はあると考えている。

のように空語根のように働いていると思われる語基はあるが、例の種類が少ないため括弧をつけている。

### E. 意味的に対応する語基との形式的一致・類似

パイワン語の LP においては、以下の例を除きほぼないといえる。

- [2] 接頭辞 **sa-**「～の匂いがする」...語基 *səqu*「匂いをかぐ」  
[3] 接頭辞 **kin-**「(食物・飲物を)消費する」...語基 *kan*「食べる」

### F. 接頭辞調和はあるか

結論から述べると、パイワン語に PH があるかは現段階では不明である。しかし以下の例 [4][5][6] を見る限り、ないと言い切ることはできないのではないかと考えている。以下にその理由を示す。

- [4] *kin-musa-λ=an̄ga=kən*      a      *kənama*  
KIN-2-回=COS=1S.NOM    LK    朝ご飯を食べる  
「私は朝ごはんを2回食べた」

- [5] *tja-g<əm>a|u*      a      *tja-dikit*,    nu   ita   *qadaw*,   *kin-musa-λ*    a      *ki-validi*  
もっと-ゆっくり<AV>    LK      more-short    ～時 1   太陽    KIN-2-回    LK    KI-まわる  
「(時計の)短いほうの針は更にゆっくり動き、一日に二周する」(族語E 楽園九階教材第四課より)

[6] Egli (2002: 223-224) より

- λə-pusa-λ* (～へ行く(LP)-2-回)「2回～する」  
*s<əm>an-musa-λ* (作る(LP)-2-回)「2回～する」  
*masan-musa-λ*「なる(LP)-2-回」「2回～する」

まず [4][5][6] すべて「LP-2-回」で「2回～する」という意味を表す語である。[4][5] の斜体で示した箇所はそれぞれ **kin-** と *ken*、**kin-** と **ki-** で形式が似ている。さらに [6] で示したものはすべて「LP-2-回」で「2回～する」という意味を表す。[6] の例を示すだけでは PH があることの証拠にはならないが、「2回～する」という言い方にこれだけの種類があるということは、後続の動詞によって「LP-2-回」の LP の部分が変わる、つまり共変が起こっている可能性があるとも考えることもできる。このことから、パイワン語における PH の有無はさらに調査を進めてから改めて結論を出したい。

## 3. ルカイ語 (Mantauran 方言) の語彙的接頭辞 (おおよそ 80 個)

Maga, Tona, Mantauran, Budai, Labuan そして Tanan の6つの主要方言がルカイにはあり、今回はその中でも Zeitoun (2007) に記述がある Mantauran 方言の LP を対象とする。

- ・Mantauran の音素 ; a, i, o, ə, p, t, k, ʔ,<sup>3</sup> s, h, v, ð, ts, m, n, ŋ, r, l, ʃ

<sup>3</sup> Zeitoun の表記に従い、/ə/ は e で、/ʔ/ は ' で、/ŋ/ は ng であらわすこととする。

### A. どのような意味の接辞があるか

表 3: 語彙的接辞のあらわす意味 (ルカイ語)

	削 る	縛 る	投 げ る	与 え る	洗 う	着 衣	飲 む	食 う	獲 得	除 去	作 る	発 話	所 在	行 く	な る	臭 う	好 き	類 似	上 手	所 有	存 在	し に 来 る
ル カ	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	-	+	-	-

Zeitoun and Teng (2009: 481-482) は台湾原住民諸語の “ki”- の分布と機能について調査し、多くの台湾原住民諸語が “ki”- という LP を持ち、その中心的意味は「得る、収穫する」であると述べている。台湾南部の原住民諸語としてはパイワン、ルカイ<sup>4</sup>、プユマがすべて “ki”- を持ち、その核となる意味は「得る、収穫する」である。さらにいろいろな種類の名詞に着くことができ、かなり生産性が高く、“ki”- の持つ意味もかなり種類があると記述されている。実際ルカイ語では「獲得」と「着衣」は同じ 'i- という LP が使われる；'i-kipingi (LP(とる)-√服)「服を着る」、'i-vecenge (LP(とる)-√キビ)「キビを収穫する」など。「飲む」「食う」に関してもパイワン語と同じく「(食物・飲物を)消費する」という LP1 つであらわされる；'ini-「(食物・飲物を)消費する」、'ini-vavaa (LP((食物・飲物を)消費する)-√酒)「酒を飲む」など。「好き」に関しては、'api-「～するのが好き」→ 'api-oa (LP(～するのが好き)-√行く)「行きたがり」などがある。

### B. それぞれの接辞の意味は明確か？

上記の表 3 とその具体例に見るように、基本的には明確であるといえる。

### C. 接辞に生産性はあるか？

パイワン語と同様、(あ) 着く相手の意味を選ばないかどうか、(い) 外来語に着くかどうか、(う) 即興的に作られるかどうか、(え) 句に着くか、を基準に考える。

(あ) to-「作る」など、様々な意味に着く LP はある；to-ae (LP(作る)-√1)「一つ作る」、to-dhao (LP(作る)-√多い)「たくさん作る」、to-ta'onac (LP(作る)-√小屋)「小屋を作る」など。

(い) Zeitoun (2007) の資料からは判断できない。

(う) Zeitoun (2007) の資料からは判断できない。

(え) Zeitoun (2007) の資料からは判断できない。

### D. 語基との間にはどういう意味的関係を持ちうるか

表 4: LP と語基の間に成立しうる意味関係 (ルカイ語)

	対象	回数	多/少	数量	範囲	レ貼	様態	描写	結果	可能	空	願望	場所
ルカ	+	+	+	+	-	+	(+)	-	-	-	-	-	+

<sup>4</sup> Zeitoun and Teng (2009) で扱われているのはルカイ語 Tona 方言であり、本稿で扱う Mantauran 方言とは “ki-” の表記がそれぞれ ki- と 'i- で異なる。しかし Mantauran 方言の 'i- に関しても「核となる意味は「得る、獲得する」である」と Zeitoun (2007: 487) に記述があることから、この 2 つは同じものとして考える。

- [7] 行為-多/少; **ma'ohi-**「分ける」→ **ma'ohi-maidhai** (LP(分ける)-√たくさん)「たくさんのパーツに分ける」など。
- [8] 行為-レッテル貼り; **tali-**「～製、～でできている」**tali-'angato** (LP(～製)-√木)「木製」など。
- [9] 行為-様態; **'ako-**「話す」; **'ako-sisa'i** (LP(話す)-√小さい)「小さい声で話す」。この例に関して、意味としては様態だが語基自体は範囲とも取れるため括弧を付している。
- [10] 行為-場所; **mo-**「～へ行く」→ **mo-valrio** (LP(～へ行く)-√村)「家に帰る、戻る」など。

#### E. 意味的に対応する語基との形式的一致・類似

Zeitoun (2007: 55) には以下 [11-13] のように動詞の独立形をもととする接頭辞はほんの少ししかないと記述されていたが、Appendix (2007: 465-489) を見ると、[14-15] のように他にももう少しありそうである。

- [11] **'ali-** 'from' < 'aliki 'come from、[12] **'ira-** 'for' < 'iraki 'do for'、[13] **to'a-** 'with' < to'araki 'use'  
 [14] **paori-** 'stick to' < paoriki 'stick to, think about'、[15] **'ini-...(-ae)** 'behave like, look like' < 'inilrao 'resemble'

#### F. 接頭辞調和はあるか

Zeitoun (2007: 54-55) は Mantaunan 方言の **to-**「作る、生産する、建てる」は PH を引き起こすと述べている。以下のように **to-** が数詞に着き、なおかつ「作る、生産する、建てる」という意味に関連する出名動詞が「**to-** + 数詞」に先行もしくは後続するときに PH は義務的に起こるといふ。

[16-a]

<b>to-dho'a-lrao</b>	<b>to-alake</b>
produce-two-1S.NOM	produce-child
“I have two children.”	

[16-b]

* <b>to-dho'a-lrao</b>	$\phi$ -alake
produce-two-1S.NOM	$\phi$ -child

しかし、以下の [17] に見るように「**to-** + 数詞」には「作る」を表す出名動詞以外も後続することができるが、その場合形式においても意味においても共変が起きていないように見える。そのため、現段階の限られた資料では PH の有無を判断することができない。

[17-a]

<b>to-dho'a-lra-ine</b>	voa'i	kamosia
produce-two-1S.NOM	DYN.SUBJ.give	sweet
“I give him/her two candies.”		

[17-b]

* <b>to-dho'a-lra-ine</b>	to-voa'i	kamosia
produce-two-1S.NOM	produce-DYN.SUBJ.give	sweet

#### 4. 結論

本発表ではパイワン語とルカイ語の LP について以下のことを確認した。

- 1) LP それぞれの意味は明確なものがほとんどである。
- 2) 接辞と語基の意味関係はそこそこ広い。パイワン語もルカイ語も「動作+対象」が最も多くみられる。パイワン語では「動作+描写」、ルカイ語では「動作+様態」、そして両言語で「動作+レットル貼り」が見られた。
- 3) LP がさまざまな種類の語基に着くという点では両言語とも生産性があったが、その他の点ではブヌン語ほどの生産性を見いだせなかった。
- 4) LP と語基で形が似ている例は少ない。
- 5) PH は両言語ともあるともないとも断定できない。偶然の一致の可能性もあるが、特にパイワン語においては「～回～する」の形式にいろいろな種類が認められるため更なる調査が必要である。

#### 参考文献

Egli, H. (2002). *Paiwan Wörterbuch: Paiwan-Deutsch, Deutsch-Paiwan*. Harrassowitz.

Ferrell, R. (1982). *Paiwan Dictionary*. Pacific Linguistics.

Huang, W. (2012). *A study of verbal morphology in Puljetji Paiwan* [Master thesis]. National Tsing Hua University.

Zeitoun, E. (2007). *A grammar of Mantaoran (Rukai)*. Institute of Linguistics, Academia Sinica.

Zeitoun, E., & Teng, S. F. (2009). From ki-N “get N” in Formosan languages to ki-V “get V-ed” (passive) in Rukai, Paiwan and Puyuma. In E. Bethwyn, *Discovering history through language: Papers in honour of Malcolm Ross* (pp. 479–500). Pacific Linguistics.

小川尚義・浅井恵倫. (1935). 『原語による臺灣高砂族傳説集』. 刀江書院.

財團法人原住民族語言研究發展基金會 (2022) 「族語 E 樂園」<https://web.klokah.tw/> [最終アクセス日 2023 年 5 月 10 日]

張秀絹. (2016). 『排灣語語法概論』. 原住民族委員會.